

「安楽寺門前町の辻」  
(清田町)

旧蒲郡町の古代には、人は海から文化は豊川から国坂峠を越えて伝わり、赤日子神社を中心に柏原から五井にわたり広く薄く広がって暮らしていたと考えられています。平安時代の末期には石山神社辺りに勸学院が建てられ、多くの塔中が建ち並んだことがあったようです。



現在の景色

中世はじめ、熊野勢力に上ノ郷(現在の神ノ郷)を奪われ、原住民が押し出されて清田村が形成されました。中世の末期に久松佐渡守が上ノ郷城に入ると、田地の寄進などで安楽寺を支援したことから、江戸時代にこの辻一帯が小さな門前町となりました。

明治時代になると北部小学校が建ち、昭和8年には観光開発で鉢地坂トンネルを開削し「新箱根」と命名されました。それにより本宿までのバスが運行され、蒲郡駅からの道路も拡張整備されました。戦後には北部幼稚園や北部公民館ができ、その後少し東に「オレンジロード」が開通し、蒲郡の北の玄関口となりました。

この地はミカンとイチゴ栽培の中心地の一つで、近くに天然記念物「清田の大クス」があります。最近では地元の努力で西田川源流にホテルが戻ったことが話題になっています。

この辻は信号のない三差路で、左側の昔ながらの細道が清田地区の主要施設(小学校・保育園・公民館など)への道で、右へ曲がる大きな道が市の産業・観光機能を担う道である落差がおもしろいと思い描きました。



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野 幹 義

「恋はクレナイに燃える ヤマアジサイ・紅」

この花(実はがく片)は初め白色ですが、まだら状に少しずつ色づき、やがて真紅に染まっています。しかも色づき加減は花ごとに異なるため、濃淡が散らばりとても深い色合いになります。花の色が変わるものにはニオイバンマツリ(紫→白)やスイフヨウ(白→紅)などがありますが、クレナイは花びらではなく厚いがく片のためか、長い時間をかけてゆっくり変わっていきます。紅く色付いている大きな花は飾り花と言って、雄しべ雌しべが退化しているので実はずりません。中央の線香花火のような小さな花に実をつけます。

先入観とは恐ろしいもので、子どものころよく見掛けるまん丸のアジサイを見慣れていた日には、花が周りに少ししか付いていないヤマアジサイやガクアジサイは不完全な感じがして異質に思えてなりません。しかし、整形でないものの方が逆に味わい深い美しさが宿ることを教えてくれた花です。

この花は、日本画や女性の着物の美しさに通じる、和風の趣深い花に思われ、同時に大人の雰囲気のある艶やかさも感じられます。この花を見ると石川さゆりさんが「天城越え」を熱唱する場面が連想されます。艶やかな着物姿、クライマックスの真紅の照明、琴線に触れる歌詞、そう大人の恋はクレナイに燃えるのです。



目次 Contents

特定健診・特定保健指導の内容をお知らせします	3
メタボの予防は若いころから!	4
あなたも観光ボランティアになってみませんか	5
MYスクール・図書館だより	6
まちの達人・読む水族館	7
遊びにおいでよ児童館へ	8
健康カレンダー	9
市民相談	10
いちおし逸品	11
お知らせ	12-23
クイズまちがいさがし・編集後記	24
ふれあい宅配便	25
つくってあそぼショー	26
こどもミュージアム	26